



## 問 二学期制(試行)についてその成果を問う

答 精神的なゆとりができ、児童・生徒とじっくり向き合う時間ができた

**問** 本年度から試行を始めている二学期制の成果や課題、学校や保護者の受け入れ状況、及び今後の方針、さらには、二学期制導入の全国や県の状況を伺う。

**教育長**

二学期制実施率		(文部科学省)	
	全国H18	福岡県H20	
小学校	18.1%	11.0%	
中学校	19.9%	10.8%	

福岡県(65市町村)	
本格実施	5市4町
H20から試行	筑紫野市・大木町
実施率	16.9%

二学期制への取り組みについては、本年度より、学校代表とPTA代表をメンバーとした大木町二学期制推進委員会を設け、3回の会合を持ち、実施状況を報告するとともに、改善策や成果と課題等を話し合ってきた。

主な成果は、授業時数の確保ができ、教育相談の充実が図れ、基礎基本の定着が図れたこと。7月と12月は、これまで評価に追われていたが、時間と精神的なゆとりができ、

指導の充実や児童生徒とじっくり向き合うなど触れ合う時間ができたこと。

さらには、評価の在り方が工夫され、きめ細かな指導と評価が行われた。

また、1月に児童・生徒、保護者、教師にアンケートを実施したところ、保護者の8割が二学期制の目的や内容について理解されており、夏休みや冬休み前の教育相談の実施、それに、補充学習や中学校での単元ごとのテストの実施については、8割から9割の方が「良かった」と答えられている。

また、今後の改善策のご意見も、児童・生徒、保護者、教師から数多くの意見が寄せられた。

教育相談や評価の在り方について、休業日の在り方や学習意欲の持たせ方について、定期考査の時期や学校行事についてなど、賛否両論あった。

これらを参考にして、今後は、年間を通して、行事やテストの時期及び内容を見直す等、効果的な改善を図る必要

がある。

二学期制の導入は、授業時数の確保だけでなく、これまでの学習活動や行事を総体的に見直し、充実させる契機となると考えている。

今後も、学期途中の長期休業を有効活用するための工夫・実践や、効果的な評価・学校行事の在り方を追求していきたい。

## 問

「大木町家庭教育支援チーム」について、チーム構成、活動場所、活動内容、成果、今後の方針を伺う。

**教育長**

まず、6名のチーム員を3つの小学校を拠点として2名ずつ配置した。

支援チームの名前を「和」と書いて「なごみ」とつけ、小学校の児童を知ること、教師との交流からスタートした。

各学校で、特徴的な活動も実践できた。たとえば、保育園の学習会やイベントに参加したり、高齢者向けの「綴り方教室」などを月2回開催したり、高校生のボランティアを募って、中学生の学習会を

冬休みに実施したり、不登校気味な家庭を訪問し、健康福祉課と連携して母親への支援を行ったり、意欲的・献身的に取り組んでいただいた。

その間、支援チームのパンフレットを作成したり、「なごみ通信」を発行し情報発信にも努めた。

成果としては、学校で子供たちと身近に接することで、保護者とも話がしやすくなり、オープンカフェでは、相談されることもあった。教師との信頼関係もでき、親についての情報交換ができた。

また、学校、行政だけではなく、なかなか入りこめなかつたところが、チームで関わり、親の信頼を得たことにより、良い方向で動きはじめた。

今後の取り組みとしては、チーム員の意識や意欲が高まっているので、幼稚園・保育園さらには中学校へと活動を広げていきたい。

また、相談体制の充実を関係機関と連携協力しながら、素晴らしい活動も継続発展させていきたい。